

新年あけましておめでとうございます。

今年は卯年という事です。いつの時代も困難の尽きる事もなく、次から次へと様々な問題が生じてきます。いつまでもシャキッとしないこの国の政治に、もうどうでも良いという諦めの雰囲気がこの国全体を覆っているようです。怒りが渦巻いているのならまだ良くなる兆しがあると思えますが、この無関心が渦巻く社会に再生の可能性があるのか。この閉塞感を打破する為には何が必要なのでしょう。

さて、新春号の年頭所感は宮城信雄会長と原中日本医師会会長に書いて頂きました。混沌とした社会情勢に対して県医師会、日本医師会はどう対応すべきか、難しい判断が必要ですね。その中でも原中会長の言葉にある、勤務医と開業医を分断し対立の構図に仕立て上げ、その間隙をぬって社会保障費を切り詰めようとする官僚の世論誘導に負けない発言力が要求される時代だと思えます。第123回日本医師会臨時代議員会報告は玉城副会長に書いて頂きました。医療ツーリズムは沖縄県においては観光産業との結びつきがあり、日医の慎重な姿勢とは若干スタンスが違ってきそうです。今後市場原理導入などの足がかりにならないようじっくり腰を据えてかかりたいものです。九州医師会連合会第314回常任委員会報告は宮城会長に書いて頂きました。支払基金の支部間格差が査定件数で3.5倍、査定点数率で3.6倍とは驚きました。同じ診療をしてもこんなに差があるのでは困ります。審査に関してはコンピューター審査の議論が始まっているようですが、再審査、再々審査の時などは結局人間の目を通さなくてはならず、地域格差の是正には課題が多いようです。また、国民皆保険を堅持するための雇用環境の是正についても議論があったようで、これは非正規雇用環境の急激な膨張により保険料を

支払えない世帯が増加しているという報告です。まさに国民皆保険はその根幹部分から揺さぶられている事を感じます。日医が国民生活に対してしっかり目を向けていることを知りとても心強く思いました。第110回九州医師会総会・医学会及び関連行事では、安里常任理事、大山常任理事、稲田常任理事、平安理事の印象記も現場の雰囲気がよく伝わってきます。日本臨床整形外科自賠責・労災担当者会議報告は労災部会長の久場長毅先生に書いて頂きました。労災症例の扱い、症状固定の判断規準など大変勉強になりました。生涯教育コーナーは県立南部医療センター・こども医療センターの我那覇文清先生にご執筆頂きました。肝細胞癌の治療方針が肝障害度、腫瘍数、腫瘍径によって手術、穿刺局所療法、肝動脈塞栓療法などの的確な治療法が選択されている事がわかりました。アンギオをしながらCTを撮影できるというIVR-CTシステムは画期的なシステムですね。プライマリ・ケアコーナーは豆の木クリニックの吉原邦男先生に書いて頂きました。CKDというと透析の事が直ぐに頭に浮かびますが、実際には様々な病態が生じうるので知りました。ロゴマークは語るでは光クリニックの金城光世先生に書いて頂きました。内視鏡と光をうまくミックスしたかわいらしいロゴですね。今回は新春という事で、今年めでたく年男、年女になられた先生方に新春干支随筆を書いて頂きました。卯年の先生方は皆さん元気、そしてユニークですね。沖縄県医師会報もウサギの様に元気に跳ね回っていきましょう。ウサギは寂しがり屋ですので、会員の皆様、今年もなにとぞよろしくご寵愛下さい。

広報委員 玉井 修